

半導体の修学旅行 誘致



半導体の基盤となるウエハーの説明を受ける高志中等教育学校の生徒たち＝6日、大津町

大津町の観光協会

大津町の「肥後おおづ観光協会」は今秋から、半導体について学んでもらう修学旅行の誘致に取り組んでいる。町に立地する半導体関連人材企業の研修施設でクリーンルームの体験も盛り込み、利用した高校生から「面白そうな業界で興味が湧いた」と好評だ。

県外高校生ら 研修施設で体験



同協会によると、隣接する菊陽町への台湾積体電路製造（TSMC）進出で、半導体を学ぶ場の問い合わせが増え、熊本県観光連盟とともに学習プログラムを作成。製造系人材サービス大手の日総工産（横浜市）の協力を得て、同町室の同社研修施設で9月に受け入れを始めた。

11月6日には、新潟市立の中高一貫校、高志中等教育学校の5年生（高2に相当）の約30人がプログラムを利用。半導体が人工知能（AI）や自動車など幅広い産業に使われることや、製造工程での洗浄に地下水を使うことなどを座学で学んだ後、クリーンルームに専用のスーツを着て入室。基盤となるウエハーを実際に手に取り、製造装置の扱い方なども学んだ。



半導体製造の現状について説明を受ける高志中等教育学校の生徒たち

体験した高校生は「現代社会で一番使われている技術を知ることができた」「一度は日本で衰退した産業が、熊本で再興しているのはすごい」と感銘した様子。同校の担当者も「身近だが、想像しにくい半導体を知ること、将来の進学先を考えるテーマの一つになる」と手応えを語る。

（林田賢一郎）